WASON
HQ
1104
J74

Mar. 31
1888
no. 103

廿一年三月卅一日發兌（版權所有）

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢 府内無税 郵税一錢 毎土曜出版

第百三號

社説 女學校々長の涙

論説 告別之演説（植村正久）○日本婦人之地位（伴直之助）

批評 歌舞音樂畧史

叢話 婦人と禁酒（阿部磯雄）○美術論（美術解及美術學校の締盟）○百人一首一口話（鈴木弘恭）○古の男女風俗（佐々木小鈴）○行平

小説 都鳥○小説神髓

佳傳 ハーリエト、子ヱル

寄書 烟婦女史の詩○一致 女學校生徒歌文 小供の記－ 尤も奇とき所行

新報 公論新報に答○女子の唱歌○鹿兒島縣と娼妓○美術の雜誌其外二十三件

詳和堂中川昇刻　賣二〇三一一一五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 103, MARCH 31TH, 1888.

EDITORIAL:— Presi lent of Girl's School.

LEADING ARTICLES:—A Farewell Speech by Rev. M. Uyemura (Conclvded); Position of Woman in Japan, by Mr. N. Ban.

CRITICAL NOTICES:— "Kabu Ongaku Ryakushi" (Short History of Dancing and Music in Japan.).

MISCELLANIES:— A Woman's Temperance Union, by Rev. Q. Abe.; On Fine Arts; Old Customs of Women in Japan, by Miss K.Sasaki; Short Conversations on the Hundred Odes by a Hundred Poets (III).

BIOGRAPLRIES:— Harriet Newer.

HOVELS:— "Miyakodori"; Bongnet of Novels.

CHILDREN'S COLUMN:— A Noble Deed of all.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

前號(第百二號)目次

●社說 日本の家族(第七)一家族の女王

●論說 告別の演說(植村正久)

●批評 日本情交の變遷○日本將來の婦女

●叢話 からだの持方(加藤弘之述)○正行固く辭す○佐野源左衛門○婦人と禁酒(安倍磯雄)

●小說 都鳥○小說神髓

●佳傳 婦人慈善會の看護婦

●寄書 文苑(鈴木弘恭撰)

●新報 高等女學校長○廢娼と植木枝盛氏○佛者の女權論其他二十件

●小供のはなし 温和ある手

●附錄 第十卷總目錄

●珊瑚の珠 (第五十九回)

○ジヨンロード曰くハンナモアが倫敦の都を退いて寒村境裡に兒童を敎ゆる、賢明なるマダムデメインテノンがセントサイルの學校に於ける、正淸慈愛なるメリーライヲンが其のマウントホリヨークの學校に於ける、仁惠實際なるエムマウイルラルドがトロイの其の學校に於ける如き、女流にして敎育に從事したるもの丶魁なり光あり榮擧あり。

○ペインター曰く女子が敎育家として甚はだ可なるとを第一に主張したるはフレーベルあり。

○フレーベル曰く國民の命運は彼の權力を有すると稱するもの丶手よりも寧ろ婦女子特に其の母なるもの丶手中に在り故に吾々は女子を敎育せざる可らず女子を敎育するにあらざれば新時代の人民は決して其の良事業を成し得るに至らざる也。

○嫉妬は婦の七去の内にて女たるもの愼むべき第一たりといへども十にして八九はありいづれも女の疾也さて文字も病冠にしたがふ也もろこし一人の夫ありて常に水神の賦を誦せり其婦はなはだ水神を妬みて死して後ち其身水神となりたりしと陳眉公が故事掌珍に見へたり (瑣齋隨筆)

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第百三號

明治二十一年三月卅一日發兌

社説

○女學校々長の涙、

女子教育の方今の如く隆盛となれるは眞に尤も感謝すべきとなり女學校は到る處に建られ婦人會は到る處に催うされ上み雲の上の孃方は英佛の語學に丹精を凝らし下も山の奥の賤の女は洋服裁縫に氣魂を惜まず二十餘年の短日月が日本男子の教育を西洋風に變じたるは實に驚くべきの進歩なれ然れども明治十七年來四五の星霜が女子教育を驅て斯くまでに至らしめたるは更らに大に驚歎すべきの進歩なりとす。

大勢すでに一變せば區々たる故障妨害は殆んど其効を見ず今に至るも古風の老人は尚ほ色々の反對説を呈せらるべし然れども女子教育の大勢すでに今日の如く一大變したる後は多少の異論多少の不同意は今既に其力あるを見ず年少女子が學に走るの鋭氣は最早や制すべからず東京留學の願を聞屆られずして首を縊るものあり友人と共に京に上りがたきが故に水に投ずるものあり其の不量見は悲しむべし其心中は憫れむべし然れども時勢の傾きに動かされて一日も安んずるを得ざる立志勉學の氣象の女子惣躰に行はるゝに至れるとは之に由て明白なり越路の雪の奥筑紫の海の果すでに然り日本文明の中心東京府下に於ける女生の元氣の今日の如くなれるは固より當然の事なり左れば父兄も亦之を制しがたく女大學も亦た之を制しがたく何處の孃君も皆な箱を脱して學校に入り其一念を早くも倫敦華盛頓の眞中に洋行せんとす時勢の變遷も亦た驚くべき哉。

此故に東京横濱に於ける數十の女學校は申すに及ばず各府縣各都會に設けられたる數多の女學校には何れも皆な多數の生徒を教育せり、中にも京濱間に名ある女學校に於ては何處も大抵生徒滿員にして日々の申込を絶謝し或ひは至急に增築を用意して今ま頓はかに校舍を取廣ぐるものあり日本國に於ては現今女子教育の隆盛なると古今無雙にして開闢以來に絶て例しなき所ろのもの也故に此際に必要するの覺悟も亦た尋常ならず。

抑も女學校と云へるものゝ公けに建られたるは今日が初めてなり女子が家を出でゝ規則正しき教育を受くるも亦今日が始めてなり之を學校に送る所ろの兩親も亦た從前曾て斯樣の覺へなく之を教育する所の教師も亦た未だ曾て經驗する所なら

ず況んや西洋の女風を日本の女子に學ばしむるの決果は如何なるべきか何人も未だ嘗て之を知らず敎育を受けたる所ろの女子は果して何如になるべきや亦た素と何如に成行を至當とすべきや此邊も亦た何人の未だ嘗て承知せざる所なり、此時に當つて女子敎育の方針を正當にし其進路をして一歩をだも誤ちに曲げしめざらんとするは固より尋常の辛苦にあらざる也然れども其辛苦は何如に多くとも大凡そ今の女子敎育の路に當るものは何人と雖ども皆な尤も謹愼して大に覺悟する所なかるべからず、今日の女生徒にして万一にも其受る敎育の決果宜しからずんば其害の當人自己の上に落ちて爲に之が百年の身を誤らしむるは申す迄もなく切角に勵みたる父母は之に由て懲り女は矢張り學問せしむべからずと斷念すらん女子敎育の萌芽未だ伸びずして乍ちに摘まみ去らるゝ者也而て此の出來損じたる女生徒の惡風は第二代の年少女子に傳染し初代の女風先づ腐りて後來幾年の日本女風を腐らし之よりして清潔なる女德の流行久しく絶えて女流眞正の開化は暫らく全く中止すべし、そも〳〵方今女子敎育の演劇を見物するものは固より皆な素徒なり舞臺に出でゝ之を演るものも亦白徒にして之を演らしむるものも亦た固より黒徒にあらず故に彼等は皆な少さかの失敗をも之を大層に感じて殆んど救ふ可からざる程に落膽し遂に此の尤も美なる活演劇を中途にして廢止するともあらん此に至つて悔るとも既に及ばざる也。

左れば今の女子敎育の當路者は上み文部大臣より下も女學雜誌の編者に至るまで其間には學校の女敎員もあらん女子に關する新聞雜誌の記者もあらん男女交際會の幹事もあらん鹿鳴館踏舞の世話人もあらん洋服裁縫の敎師もあらん西洋女禮の師匠もあらん固より茲に幾多の關係人あらんと雖ども其人々は何れも皆な是れ尋常一樣の考へを以ては迚も向後の新女風をして善美の方向に進ましむると能はざる也、故に吾人は自から省みて常に之を思ふと共に凡そ今の女子敎育家諸君に對しては甚だ切に此の一義の注意を請はざるべからず然れども中に就いて吾人が尤とも切に其注意を請ふ所のものは即ち女學校の敎員諸君にして敎員諸君數多きが中に就て更らに尤も多く之を需むる所ろのものは即ち校長其人に在る也。

抑も今の女學校は年少くして尙ほ綿の如き妙齡の女子を敎ゆる所ろ也其の敎へ方によりては之を何如ようにも形ち造り得べし故に學校の感化宜しくば温雅の淑女則ち茲に出つべし其學問の方向宜しくば有爲の佳人則ち茲に出づべし之を踏舞に

（二）

於て乘馬に於て交際會に於て教育するよりも其感化の行わるゝと眞に切に眞よ有力なり之を以て女學校の教育を掌さどる者の任は其重きと一層に重もし蓋し幾多の他の女子教育家の比にはあらざる也。

此を以て吾人は敢て問はん今の女學校教員は先づ其心眞實に女子一個人の靈魂を愛するや、今の一個の女子を教育するは其影響後來幾年の日本前途の女風に關係することを覺悟せりや、果して女性特有の氣質を承知し之を發達するの方法固より男子に於けると同じからざるを承知せりや、果して能く今の女子に相應する教育の度數性質の何如なるべきかを知か、一言するに女子の躰力を強くし其智性を伸はし尚且つ優たる其貞德を發達せしむるの方法の何如なるべきかを知れりや、好し今の教育家は固より皆な未だ經驗なきの人なり然れども其心中の覺悟其心中の謹愼其心中に重きを負ふの恐懼は之れなかるべからず諸君果して之れ有りや否や。

女學校の諸教員に此等の心得を必要とするは勿論なれども之を其校の校長の上に必要とすると更に尤も切なり古語に云く上の好む所は下之よりも甚はだしく上の德は其行はるゝこと喩へば風の草に向ふよりも速かなりと苟くも事物實際の關係を經驗するものは此の語よ最大の眞理あるを悟らん而して凡そ學校の如く只だ感化の行はるゝを專らにするの處に於ては此語の眞理を味ふと更に強く學校の中にも女學校の如く感化の行なはるゝと尤も強きの所には此の語の眞理を味ふと更にます〱切なり、故へに女學校校長心裏の方案は發して全校の教育制度となり其校の學風陰々に固定して亦た動かす可らざるに至る其校長一個の氣質は發して全校の教員及生徒の氣質となり其校の氣風亦陰々に固定して一旦定まるときは復た殆んど動かす可らざるに至る其の相ひ應ずると音の響に於けるが如し其應ずるの確かなると猶ほ一端を打て一端を動かすが如し此の神秘の關係あることを尤も強く承知し得ものは即はち尤も密に學校の景況を視察したるものなり苟しくも其實際の有樣を細かに吟味するものは何人と雖ども乍ちにして吾人が此の一言を然りとすべき也、但し多くの學校中に於ては往々其實際の然らざるが如く見ゆるものあり蓋し其校內に一定したる氣風なく一定したる學風なく何人の勢力の行はるゝとも見へず何人の感化の行はるゝとも思へざるもの固より之れ有り然れども如此きは即ち亦た其校長の無氣力無有爲の性質の反響するものにして均しく是れ彼れが薄弱なる感化の及ぶ

所ろと云はざる可らず故ゑ人もし之に由て吾人の言ふ所を不可ありとせば吾人は即はち之に由て不適當ある校長の世に多く存するを知り以ていよ〳〵之を悲しまざるべからず。

女學校々長の責任甚はだ大なり而して女學校の氣風を造り其女生徒の品德を養生するに付ては校長たるもの丶責任の殊に尤も重大なるを覺ゆ其思想其の志望其の風采其の一擧手一投足の行ゑ至るまで乍ちにして全躰に影響を及さゞるはなし、校長の思想純潔に其の志望高尙ならんか一場の演說一席の勸告も尙ほ明白に其趣きを現はすべし況んや其言ふ所ろ其の敎ゆる所之を朝に夕べに生徒個々の耳目に接せしむ彼等は知らず〳〵して純潔の思ひを得知らず識らずして高尙の望を抱き人も知らず當人自身も知らず校長彼自らも之を知らざるの間だに全校の氣風忽然一定して生徒惣躰の氣質殆んど相ひ似るに至らんとす諺に云く無花菓は相見るのみにて果ありと校長の風采は敎員を化し敎員の風采は校長の風采と共に生徒の風采を化し一擧手一投足の樣姿ゑ至るまで亦た遂に全校に固有の風躰を生ずるを見ん故に同人社に行かば書生の氣風自から沈實陰に敬宇先生の風采に似るもの多きを見ん同志社に行かば英學校中に眞面目ある幾多の新島襄氏あるを見るべし帝國大學に行かば方今尙ほ加藤弘之氏の朴々無頓着ある風采の所々に殘るを見るべし慶應義塾に行かば滿塾皆な是れ半商人半政事家の揚々たる雛なるを見ん校長の感化の及ぶ所ろ如此く切あり而して此の感化の尤も強く行はるゝは女學校に若かざるべし、女性は甚はだ感じ易く亦甚はだ移り易し其心一旦曲がるときは蛇の如し然れども其の直きに向ふときは溫情優々導くもの丶意の如くある、故に其學校校長の爲に感化せらるゝと亦甚はだ多きものある也。

（四）

今の女學校校長は此の甚はだ大切ある時機に際して此の尤とも重大ある責任を有す其の覺悟するところ固より尋常にあらざるを要するあり、蓋し彼等は幾度か生徒個々の爲に泣かざるべからず學校の氣風宜しからず生徒の行狀正しからずんば其責め一に彼等自身に在り將た何人をか怨み何人をか咎めん須らく自から謙だり自から省み先づ其の己の心中に正しきを求むべし自から正しうして且つ人を愛せば其念遂に達せざるはあし若し生徒を見ると尙ほ羊飼が羊に於ける如く百疋の群羊中其一疋をも失なはざらんとを祈り之が善を見は己れに善あるが如く喜び之に惡あるを見れは己れか惡の如く悲しみ彼等が靈魂を愛し彼等の發育を樂しみ彼等が一生の方向に掛念

し情思切にして同感の念彼等と生徒との間に密着せば校長の感化の行はるゝこと更に尤も早し而して此時校長彼自身は常に自から能く守り善く發達して以て其感化を生徒個々の上に施こさゞる可からざる也凡そ根なきの花は春の夕べの櫻の如し乍ちにして落花散じて跡なからんとす校長たらんもの何如に其言葉を孔孟にし其の行を基督の使徒の如くすとも若し夫れ其心中隱微の奥に在て眞に道を慕ひ正を守り眞實に人を愛し生徒を憂思するの親切なくんば一朝一夕の感化は陽春の花と共に散す固より善良の痕跡を生徒の心中に銘するに至らざる也、故に凡そ女學校校長に尤も大切なるものは即ち其の愛心あり其の道を守るの道念也其の言葉は何如に訥なりとも其風采はよし何如に粗暴なりとも此等は先づ構ひあるなし但彼等が心中實に所以る此の二元素を欠くときは女學校生徒の德育決して宜しきに行はる可らず故に若し眞に道を信じ人を愛するの情切なるならば其感化遠からずして全校に溢れ女生徒の相見ると姉妹の如く其學校を見ると家の如く其の敎師校長を見ると恰かも親の如く淸潔純雅の德優々として充滿せん此に至つて校長が密室の内にそゝぎたる一滴の涙も既に悉く其報ひを得たりと云べき也、蓋し思ふに誠實なる女學校々長は其辛苦果して幾干ぞや彼等は男學校々長の如く活潑壯大なる心配は少ならん然れども其の活潑壯大の心配なきの處ろ即はち其の辛苦の尤も大ひなる所ろ也多辨なる女子をして其口に淸潔の言葉を滿たさしめ猜忌なる女子をして互ひに姉妹の如く交際せしめ杜漏に走り易き女子をして優雅貞淑の女德を失はざらしめ疑ひ多く不平多く瑣々たることにも心配多き女子をして其全心を任托するに至らしめんとするとき女學校々長の辛苦果して幾干ぞや、然れども君等決して落膽する勿れ若し自から淸くして能く彼等を導かば女子の如く溫和なるものは亦た世にあらざる也彼等は君等が導くまゝに隨はん要する所ろ諸君自身に其の心中の覺悟なきことを憂ふに在る也、惣べての美事は悉く涙を以て買はざる可らず校長諸君果して其の誠實なる涙をそゝぐことあるか諸君にしてもし之れなくんば恐らく眞正の女子敎育を行ふに堪へず希くは速に其任を解いて彼の可愛なる娘女百年の身を誤まらすること勿れ而して常に如此く誠實に辛苦憂慮せらるゝ所の校長諸君は希くは失望落膽して自から廢する勿れ、諸君が落す一滴の眞實なる涙は他日豈其報ひを得るなからんや其の報はるゝこと必然にして敢て毫末も之を疑ふ可らざる也。

論説

○告別の演述（其三）

植村正久

次にアイ、キャン、即ハち之れ丈けは出來ると云ふとが大切であります、或る人は申します、成程ダビテ、ゴリア等のお話しもあるが之は迚も私には出來んと云つて全くアキラムル樣です、習慣の力は眞に恐ろしいもので、蛙はカヘル、牛は牛づれと云つて自暴自棄する人がある、之は實に困る、此のようなる心を持たる人より困まるものはない、アナタ方どうぞ決して斯る心を持たず若し神の惠を蒙むるならば出來ると云ふとを思ひ玉へ。之には私しが常に感じて居るお話しがありますが、先づ何よりも確かなるは、我々の心の中には行わねば成らぬと思ふ正義の則あり、之を與へて支配する所ろの神あり、と斯樣に考へて見れば道義を全うするとが出來るだらうと云ふ信仰が起る、既に神あり道義の念ある以上は切度出來るに違ひないと信ず、アナタ方どうぞ輕ろんじ玉ふな、然し決して高ぶつては、成りませんが、能く自から重んじ、學問なくも然し此の我でさへも志を高くして就中神の保護を頼むならば立派になると云ふとを心に留めよ、之を心に留めて斷然と決心せよ、舟にかぢなきが如く決心が無くては出來ません、何のその岩をも通す桑の弓、眞に謙遜り我れ弱きものを憐れみ玉へと云ふ、謙遜なる赤子の如き自重自尊の心を以て決心なされませ。小町に爲らずとも、源氏の紫式部に爲らずとも、惡口の上手な清少納言に爲らずとも、只だ尤も愧かしきは本當の女に爲れぬと云ふとにあるようなされませ、源氏は書けずとも、四つの時の變ハる有樣を甘まく言ハずとも、本當の女になられませ、本當の立派なる魂しひを持てる女よなられませ、必らず此世に神の榮えを顯ハすとが出來ます、只だ世間に知らるゝが大切ではない、何如に此世には知られずとも、眞とに靜かに眞とに陰に好く其務めを盡して本當の女の爲すべき行をなされませ、之よりも善い成功はありますまい、故に決して自暴自棄の心を起さず先づ我の如き者にも出來ると信じ、又た之を爲して見ようと望んで、決心して善良の事を爲されませ。

○日本婦女の地位

伴直之助述

左は東京西部婦人矯風會の演説會よ於て演述せられたるものゝ筆記なり。

愛姉諸君、余は常に信ず婦女の地位ハ文明と正比例にして野蠻と逆比例なり」と彼の野蠻の時代と未開の民族とは婦女の常に其天性を抑らるゝの境遇にして世開け社會進むに從ひ愈

く々婦女が其能力を發揮して得意の境遇に入るを見るなり蓋し野蠻の民は奪掠强盜を事とするの民なり不文の時代は戰爭攻伐を專らとする時代なり而して盜賊と戰士とは固より所有權の貴むべきを解せず人權の重ずべきを知らず焉んぞ室家の興味を悟るの機會あらんや既に室家なし婦女が一般に卑位に居るもの亦た自然の數と云はざるべからず凡そ斯のごとき境遇に在りては男女婚姻の正式未だ起らず夫婦契約の成典未た成立たず人生の大禮概ね汚されざるはなし否な娶妻の事多くは掠奪若くは剽竊の手段に由らざるはなし即なはち野蠻人は禮を以て婦女を娶るにあらず意氣相合して夫婦となるにあらずして寧ろ陰然忍び入りて婦女を竊み取る乎或は公然戰場に於て婦女を掠奪するを例とす而して若し其婦女の取り去られたる父兄の怒りに觸るゝ哉彼れ勢い腕力を以て之を防ぐか然らずんば寶貨を之に與へて以て和解を請はざる可らざるに至らん婦女賣買の端遂に此に發す。

昔時「ロマ」の開祖「ロミューラス」の徒三百餘人が强奪に由て其婦を得しは明かなる事實にして殆んど當時蠻民の婚姻法を窺ふに足るべし方今に於ても此に類する惡風の猶ほ蠻民の間に行はるゝとは許多の學士の證明する所なり「チュペウハ」民族は其戀慕せる女子を得んが爲に常に相爭ひ「ブシメン」民族に於ては强者は弱者の妻を奪ひ濠州「クインスランド」の民族は女子を得んが爲に槍を以て相戰ふを以て常とし「ドクリブ、インヂアン」民族の中男の女を爭ふとは恰も牡鹿に異ならず「ローウェル、カリフォルニヤ」の「ペリキユー」民族中の男子は其欲するに從ひ幾人にても女子を取入れ之を奴隷として勞働せしめ若し婦に對して愛の去る時は輙ち之を追出し又た或る民族は金を以て妻を買はざれば愧とす」と云ふ又た「ニユーカレドニヤ」の酋長は十人、二十人若しくは三十人の妻を有し之を有すると愈々多き者は耕作手を盡し食物豐かなり」と、「マンドインゴー」民族の妻は木を拾ひ水を汲まんが爲めに遠方に行き又夫は之をして種を播かしめ耕地の雜草を除かしめ秋獲を刈らしむ」と、「カッファヤー」民族の婦女は家内の仕事の外に凡ての困難なる勞役を行へり、該民族には婦女は牛なりとし或る土人の如きは婦女は買ひたるものなれば之をして勞役に服せしめざるべからずと云へりとぞ。

余輩又た回々敎國の景况を見るに婦たるものは其良人の朋友相集る處に妄りに入る能はず又た之と共に食する能はず而して其有する所の妻は奴隷なり且つ其敎旨によれば婦女極樂に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

入る能はずと云ふ又た「パガン」宗の民族にては料理、洗濯、馬飼、薪拾ひ、火燃一切妻の職となし又さ女は精神なしとして禽獸に齊しき取扱いを受く、歐洲の歷史の如きも亦た之を證せり「タシタス」は日耳曼人に關して曰く野蠻人にして一妻を以て滿足せしものは殆んど古昔の日耳曼人のみなるべし但し身分高き人は數妻を有せりと。

余輩は更らに步を進めて稍ゝ文明の域に入れる社會を見るに婦人の地位の猶ほ極めて卑きを知れり看よ「ペリクルス」（アテンの有名なる政治家）の時代を稱して以て希臘の明世と爲所あるに婦女は終に卑しめられ、「リカーガス」（スパータの敬服すべき立法者）の法律は當世の賞讃せし所なるに却て婦女は保護せられざるにあらずや英の鴻儒「バックル」曰く「ホーマー」（詩聖）より「プラトー」（哲學者）に至るまで少なくとも四百年を經たり其間生計、美術、學問の進步實に目覺しかりしが婦女の地位に至りては寸毫も進步せざるなり」と「モンテスキユー」は曰く「メロヴヰンヂアン」統の王が數妻を有せしは其威光を表せんが爲なり」と、以上揭げたる諸例は「ハルバルト、スペンサー」其他の學者の保證する所なり余輩は之に由りて野蠻の民族不文の時代に於ては婦女も何如に待遇せらるべき乎を想察すべく又世富み學術進みし國と雖ども婦女は唯だ〳〵玩具珍寶に過ぎざるとを概見すべし而して其の地位の猶ほ伸びざる邦國は福音の道未だ傳はらず「キリスト」の教未だ行はれずキリスト教の感化力未た男女の心を浩むるに至らざるの社會なるとを發見せり然るに轉じてキリスト教を基礎とせる開明國を見よ婦女の地位は益々進みて殆んど天に達せんとす「バックル」曰く近時は兒子の教育に、文學上の精神に、生計上の習慣に、立法官の行爲に、法律家の記錄に、將た裁判官の判決に、婦女は着々步を進めて已むとなしと」是れキリスト教國たる英米の情態なり英國は諸姉の知らるゝ如く婦女の權利擴張の會ありフオーセツト夫人（經濟學者にして故遞信大臣フオーセツトの妻）等其の首領となりて財產、言論、もしくは國會議員撰擧被撰擧等に至るまで婦女をして男子と同等に至らしめんとし時機もあらば婦女を以て總理大臣とせんと欲するに至れり米國にありてはウヰルラルド孃其他婦女の專ら盡力せる禁酒黨漸く勢力を得て今や共和、合衆二大政黨を動かさんとするに至れり、彼の蠻民の呼吸する空氣は同しく英米人を養なふの空氣なり英米の國に輝く所の大陽は齊しく蕃土を照らすの大陽なり而して一方に於ては婦女は玩

具の如く賣買せられ、奴隷の如く待遇せられ、精神なきものと見做れ、極樂に入る能はざるものと認められ、終に牛馬とまで卑視せらるゝに、一方に於ては弱き舟として保護せられ、樂しき伴侶として親愛せられ、社會を飾るの花と呼ばれ、平和を維持するの天使と貴ばれ、時に自から改革家となり、慈善家となり、學者となり、發明家となりて以て世益を興し人心を支配するに至る其懸隔の差斯の如くなる所以は蓋し眞理の社會に行はるゝと否とに由らざる可らず。(未完)

批評

(65). 歌舞音樂略史　(乾坤二冊大本(合百八葉)實價七十錢 發兌所東京南傳馬町吉川半七)

此書は小中村清矩氏が著述にて上下の二卷に分ち上卷には第一(上古より歌舞音樂の事業有し事)第二外邦より歌舞音樂を傳へし事)第三(大寶以來内外の樂を朝廷に用ゐられし事)第四(唐土高麗より傳來の樂幷に我國新製の樂の事)第五(神樂催馬樂東遊風俗等の事)第六(朗詠今様雜藝の事)第七(瞽者の平家を語る事)第八(散樂及猿樂の事)の八章を載せ下卷には第九(田樂幷に田樂の能の事)第十(猿樂の能幷に狂言の事)第十一(白拍子其他の舞の事)第十二(歌舞妓狂言幷俳優の事)第十三(淨瑠璃節幷に操人形の事)第十四(三味線幷に筑紫琴の事)第十五(小唄長唄等の事)第十六(歌舞音樂沿革總論)の八章を載せたり。引證確實周密にして而も文辭尤も閑潔近來の名著にして歌舞音樂の上に初めてまとまりたる一小史を得たりと云ふべし而して卷中の所々に著者が發明の創見數多あれども文字甚はだ謙遜にして絶へて之を陽はにせず敬服の外なきなり今ま其の淨瑠璃の一章中より二節を抜き左に掲げて全躰の一斑を示すと云ふ。

淨瑠璃節は原と平家を基とし舞の歌と説經の節などを撮合せて作り出せるにや(淨瑠璃は昔より謠ふと云はず語ると唱ひ來れるにても平家の遺風なるを知るべし)其名稱は早く享錄天文の昔よあり。世よ傳ふる所は織田信長の侍女小野のお通(又豐臣秀吉の侍女とも東福門院の宮女なりとも云へり)君命によりて源牛若丸三州矢矧の宿某長者の娘淨瑠璃姫に忍び逢ふとを十二段に述作して淨璃瑠物語と名つけしを(此十二段の草子今の世に傳れり)やがて章句を付け三絃よ合せて語りしを始とすといへり(江戸名所語、昔々物語、川岡雜談、甕竹故事、近世世事談綺)然ども天文九年の守武千句よ前句いとゞだよ座頭まがいの杖つきの附句淨るりかたれ灯のもと又付こよひ今宵はや時は牛若ふけはてゝとあり信長公は此千句の時僅に九歳也幼稚の者を慰んとて綴し者とも思はれず最いぶかしき事に

思ひしが宗長日記享祿四年の條に小座頭あるに浄るりうたはせ云々とあるは駿河國宇津山にて書るなれば此頃はや田舍わたらいする小座頭のうたふとあるにて浄瑠璃は古くより有しを思ふべし享祿四年は信長公生れたもふ前年なりと高柳種彦は論じ(還魂紙料)又喜田村氏も猿樂狂言昆布賣に上るりぶしに賣れといふともみえたればお通を權興と云ふといひたく誤れり(嬉遊笑覽)と云へり按るに浄るりは説經と同じく諸佛の本縁などをかたり初しが原なるべきか其浄瑠璃と云ふ題號の佛語めきて聞ゆればなり（然れば浄瑠璃の題號は浄瑠璃に始るにあらずたへば守武千句に時は牛若云々とあるは十二段の趣にて附たる句と聞ゆれば此時既に浄瑠璃物語の草子は世にありしもの〻如し然ればお通の作といへるも亦信じがたきことゝちす）其始は扇拍子にて盲者などの語りしものなるが三絃行はれて後漸く其曲節を巧にし盛に世に行はるゝ事となりしは次々にいふが如し(下卷三十六葉)

(中略)かゝれば浄瑠璃は其始說敎に類して古事を語れる一種のものなりしが三絃に合するに及び漸く巧に移り人形を用ゐて操座にてむねと行ふ事になりしより殊さらに上手の大夫つぎ〳〵起り其作者などいふも出來來りかくて江戸の土佐節外記節京攝の井上節嘉太夫節やゝ古めきて竹本の一流浪華に盛に宮古路節東都に行はれしより遂に餘流に立超しかば今は浄瑠璃といへば大かた此の二流の如くに人の思へり中に就て竹本流は音聲も太く三絃の調子も高きは少しく古流の遺なるべし宮古路の變風なる常盤津流に至ってはいたく其趣を異にせれば今これを聞く者に其起原は平家より出たりといふとも信ずる者少かるべし源遠くして末ます〳〵分る素質變して纖巧に移れる事の尤甚しきはむねと俗耳を喜ばしむるうたひ物なるが故なるべし(下卷四十五葉)

叢話

○美術談　(其一)

美術の解釋、及び、美術學校の繪畫科

此頃ろは美術と云へると大層の評判と相成り常には斯る事件に冷澹なる人々まで今は之に就きて何かと申し合ふ程の時勢とは爲りぬそも〳〵美術とは上みは日月星辰より下もは山川草木に至り其大ひなるは人世の定めなき榮枯盛衰の成行きより微さきは人の心に現はるゝさま〴〵の思ひの轉變など總じて之を見之を聽きて人心を感動し本來人間の性として受け得たる美を慕ふの念を養なうに足らんものをば寫し出すの藝にて必竟は此の天地古今に散りて在る諸〻の美しきものを之を

一つに調へ合せて人間の耳目に示し以て其の智德の發達を助くるの用を爲すものなり。

左れば繪畫と云ひ詩歌と云ひ小說稗史と云ひ彫刻と云ひ音樂と云ひ演劇と云ひ生花と云ふの類何れも皆な所ろ〳〵に散在する美しの種を寄せ集めてかの一幅一章一曲一幕一枝の間だに無限の味を凝め只管らに人の耳目を打つて其の感情を動かすの德あり。抑も元と心あらんものが此の宇宙の大現象を見れば日月も山川も皆な自然の美を呈して恰も是れ全幅の繪を見るが如し又心を密めて國家治亂の跡を考ふれば一悲一歎自から是れ全篇の平家物語を讀むの思ひあるべし即はち天地も歷史も皆な自然に人の美情を動かすの功あるものにてはあれど斯る高尙至大の感悟をなべての人に求むべきにあらず扨ては世に美術と云へるものゝ必要となりてラーファエル或は之を繪に寫して太陽太陰の美極まるヿを示し或は法師之を琵琶に合せて平家末期の物の哀れを知らしむるヿあり世の人或は美術を以て一種の遊びものと考へ之を見るの識甚はだ卑しくして全く其の本色を消すものあり或は亦た之を繁忙多事の世の中に用なきものとし絕へて其の活世界に大の必要あるヿを悟らざるものあり左れば此等の徒は亦た美術と道德とに尤も大切なる關係の存するヿを思はずそも〳〵亦た美術の淸きと淸からざるとは國家の治亂興敗に莫大の影響を生ずるヿを思はず彼は粗暴に此は冷淡に之を見去つて美術本然の德を忘る悲しむべき哉。

然れども今ま兎に角に世人が美術の事に掛念するに至りたるは日本人民漸やく豚日雇かせぎの境界を離れて文明國民の仲間入を致す兆候と思はる眞に喜ぶべきものなり然るに當今美術論の燒點とも云ふべきは即はち繪畫の一部にして而して其の議論の何の故に斯く喧ましきかと云へば美術學校の繪畫敎授に西洋畫を專らにすべきか將た日本畫を專らにすべきかの一問題未定の故なりと云へり吾人は其路に當ず又た美術を以て本職とも致さゞる身分なれば或は思慮の誤まり居らんかは存ぜざれども斯る明白なる事柄につきて何故に左樣なる議論ありやと殆んど疑はしくぞ思はる抑も人日本の印刻を決して滅せんとは申さず然れども之より西洋彫刻術を多く流行させんと願へり又た馬琴流の小說万葉古今の詩歌を全滅せんとは思はず然れども之よりは西洋流詩歌小說の流行せんヿを希へり又た音樂にもバイヲレン、ヲーガン、ピアノ追々と行はれ演劇にも之を西洋風に改良せんとの議論殆んど定まれるの今日繪畫に

限りては何故に之を日本流に維持して西洋流には移すべからざる乎亦た何故に之を西洋流に移すことの國損とはなる乎そも〱日本畫は村夫子の如し一應は其道に於て發達したる處ろなきにあらずとは云へ之を西洋流の繪畫に比較して所謂る美術の本色を現じ得ると何れか多きと云はゞ其議案乍まちにして相分ることにはあるまじきや日本人は最早や隱者にはあらず又た仙人にもあらず四海万國の人々と交通する所ろの開化人民あり左らば日本畫の如く隱遯秋冷の趣きを專らとするものは其の棄てられんこと勿論なり又日本人は既に理學を知り生理學を知り又は幾何三角の道理をも知れり左らば日本畫の如く佛掌芋の山布引の川張子の馬片環の人間等を以て風味ありとする者は其の棄られんこと勿論なり成程日本畫にも立派なるもの及稍完全したるものあり然し之は既に風韻を重しとする文人畫の境を越えて既に半は西洋畫の神髓を申受けんとしたるもの也故に之より後正當なる美術の本旨に適ひて以てその完全の方向に進歩せんものは必らず西洋の畫風なるべしと信ず之を以て吾人は洋學を研究すると共に和漢學を棄てず洋琴を主張すると共に日本の箏琵琶を棄てざる如く固より日本畫を永遠に維持したしとは思へ之を擧て普通一汎の畫かきに習らはせんとは思はず即ち美術の大躰を進めんことを目的とし猶ほ日本國民を大きく且つ永く見ての考にてあらば彼の美術學校に於て敎授さるべきものは無論西洋畫を專らにせらるべき筈と考ふ但し當學校の目的もし日本畫を維持せんとの存念にて建らるゝことあらば即ち是れ前年の繪畫共進會と目的を同じうするものあり此樣ある目的にて建らるゝ學校ならば其日本畫を第一に置るゝは勿論の事なり但し然るときは即ち二ッの疑問を生す政府は今ま日本畫を維持するの必要ありや一つ、政府は美術の大躰を進めんことを後にし先つ其舊物を維持するの必要ありや二つ、以上の二問は義理を知れるもの、笑つて答へざる所ろ也。

○婦人禁酒會（其二）

安部磯雄述

いざこれよりは皆さんと共に仇討を致して多年の怨みを報いませう然し皆さん暫らくお待なさい餘りにはやると事を仕損じます故に能く仇の樣子を伺ひ其透を見てこれを討ねばなりません、さてあだの樣子とはどんな事で御座りませうか其は今日男子が酒に迷ひますのは何故なると云ふことを知るので御座ります元來男子が酒を用ゐますするのは誠に無理ならぬことにて御婦人方より强がちこれを責めらるゝ譯には參りません何

○行平　しのぶ

みたてまつれば、おんすがた、
つゝがもまさず、きよげなり、
なんだにむせぶ、きざはしの、
したよりゆめは、やぶれける。
やぶれてあれし、のきの端よ、
かよふはあまの、まつかぜと、
いたどをたゝく、むらさめの、
たゞをりをりの、おとづれぞ。
きしうつなみの、をきのうら、
みやこよかよふ、とりもなく、
しほやくけむり、たちさりて、
こゝろをとむる、くもとなし。
さんぜん人の、殿上びと、
一びやくばんの、うたあはせ、
春宵秋夜の、かぎりなき、
みやのあそびや、いかならむ。
ふかきなげきを、くみかねて、
しほくむわざの、いとままく、
ぶれうを消さん、まごころの、
つみなきあいぞ、たのみなる。

故なれば男子と申すものは一家に五人の家族あれば己れ一人にて其四人の者を養はねばなりません故に其荷ハ重くして誠に氣の毒の事で御座ります先づ今日稼ぎの人の事を考へませう彼等ハ朝に星を戴きて稼ぎに出で夕には月を踏み一日の苦勞を背に負ふて歸りまするが家は僅かに三疊敷の古小屋にして僅に膝を入るべし妻は夫の歸り來るを見て苦々しき顔をなし今日は何屋より借錢をはたりに來て餘程困つた又内にも御金がちつとも無いから晩飯の用意も出來ぬ常々御金を遺して置かれぬから、こんな事が出來るのじやと云へば側に在る小兒は頑是なくも飢に迫りて晩飯を促しますれば、これ面倒なと母が小兒の頭を打つ小兒は打れて大聲を發して泣く其有樣は何とも蚊とも申されません今亭主は一日の働きを終りて、やつと家に歸りて見ますれば晝の重荷を取り去ることは愚か其上に又重荷を加へられまして少しも心に樂む處がありませぬ故に少時なりともこの苦痛を忘れんと終には酒を飲むことで御座りますこれは至て下等社會の有樣にてこれを貴婦人方の前に述べまするのは恐れ多く存しますが縦令御役人さまの家でも品こそかはれ心配と申すものゝ絶ることはありますまい亭主は終日役所にて職務をなし、やつと家に歸りますれば心配の事誠に多く姑と嫁の折合悪しく小兒は始終喧嘩をなし一家の涙風絶間なき時には亭主も心に喜ぶ所少しもなく役所の苦勞に添へて家族の心配あり終にはこれも亦酒の助けを借りて其心配を消しませう、されば男子が酒に迷ふも無理ならぬ事にて全く其苦勞と心配を酒に消すので御座ります。

今一つ外に其原因が御座ります如何に男子が苦勞と心配に纏はれて居りましても若し自ら重んずるの心がありますならば決して酒を用ゐて己れの道德を亂すことはありません其故に酒を用ゐて歌ゐつ舞ゐつ騒ぎ樂むのは自ら重んずるの心なき故で御座ります考へても御覧なさい四五人集て酒に醉ひますれば互ゝは何の氣も付きますまいが側よりこれを見ますれば誠に氣違ひの集會とでも申さねばなりません以上述べましたる通り男子が酒を用ゐまする其道理が稍明かゝなりましたからこれからハ充分進んで仇の首を取ることが出來ませう然し御婦人方も遊んで居ては中々本望が遂られません、いざこれよりは大奮發で仇の住居に討入りませう。

前にも申した通り男子と申すものは隨分重き荷物を背に負ふて居りますれば何とかこの重荷を取り去り男子を慰むることが大切で御座ります、よく人の申すのを聞きまするに西洋の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家族は極樂の如く日本の家族は地獄の如しと誠とに其通りで西洋人は家と申す語を誠に、なつかしく思ひます、故に亭主が一日の苦勞を甞めて歸りますれば妻は笑を含むで之を迎へ小兒は父親の手を握りて喜びを表はします、そこで主人は妻子の喜ばしき顏を眺めまするとー日の重荷は何時の間にやらあくありまして頗りに愉快を感じます故に殊更酒などを用ゐて一時の樂を貪りません、されば御婦人方も御亭主の禁酒せらるゝを望まれますあらば酒の代りに美しき潔き愛情を以て常に御亭主の重荷を取り去り出來るだけこれを慰め玉はゞ御亭主も終には酒を棄てゝ皆さんの愛情を以て滿足されませうこれは仇討の最も好き仕方てはありますまいか」次に婦人は兎角男子に輕蔑せらるゝの風が御座ります從て男子は婦人の前に於て如何あることを言ひ如何なることを爲すも少しも耻ぬ樣にあり終には妻を棄てゝ他の女に迷ふ如き不都合千萬なることを致すことが御座ります、これは婦人の價値が低きよりして男子にも自ら重んずるの心か減りたのてわります西洋にては婦人の價値か高き故に男子はこれを敬ひまして婦人の前にて煙草を吸ひません又其前にては席を正ふすといふ位ゐ有樣で御座ります若し皆さんも道德の力を養ひ立派ある人物となり玉はゞ御亭主も追ゝこれを敬ひ從て自ら重んずるの心も盛に起りませう、なんと皆さん今よりこれを試みるの御覺悟は御座りませんか、これが私の陳べんと思ひました仇討の善き仕方てあります。

序に一事を述べませう人間は隨分氣の晴るような事を好む者てありますれば自ら酒色に陷り易き恐れがあります其故に一方では酒を止むると同時に一方では優美なる上品なる樂の方法を求めねばありません我國に於ても何卒音樂を盛にし家内中が常に喜に滿たさるゝ樣に致したき者で御座ります又此頃流行の小說本も可成善き者を撰ますれば餘程益が御座りませう。

終りに御婦人方が小兒に御對しあさる職務を述へて私の演舌を終りませう婦人は力あき者の如く見へますれども一家の內に於て母か其子に及ぼす力は誠に大ある者て御座ります小兒か生長の後善なるも惡くあるも全く母の敎訓如何に依ることなれば御婦人方は何卒禁酒のことを固く守り未た酒の味を知らさる小兒には一滴の酒をも與ふまじと御定めなさることは最も皆さんの大切ある御職務と存じます米國の「アドミラル、ファラガット」と申す人は其の童兒が十歲に達せし時彼に向

て申しまするには汝若し二十一歳に達する迄少しも煙草を用ゆることなくは千圓の金を與へんと童兒は直に其命に從はんことを約束し二十一歳までは固く、これを守りました故に父は終に千圓の金を彼に與へたと云ふことで御座ります皆さんは如何に考へられまするか西洋人は煙草ですら小兒ゑ害があると知りますれば之を禁ぜんことを願ひ其が爲めには千圓の金をも與へました誠に其子を愛し其子の爲を思ふことは誰もかく有りたきものでは御座りませんか皆さんは縱令千圓の金を與へませずとも何卒小兒の爲めに誓て酒を飲ますまじと御定めなさる樣御勸め申します若し斯くなりますれば赦し難き仇を變し敬愛すべき御亭主を救ひ又親愛すべき小兒さんの難儀と御自身の辛苦を脫るゝことが出來ませう。

○日本中古の男女風俗　佐々木小鈴

我國中古の書を見るに延喜天曆(凡そ千年以前)の比の男女の風俗の中にて最もよき習慣あり。そは皮膚の見ゆる事をいといたく耻し事なり。其比の男は貌は隱さゝれど其他ハ指のさきをも容易にあらはさゝりしなり朝野群載といへる書の進退傳に取笏之後不顯兩手左手之上覆其袖之端側手隔袖取笏と見えたるを以て知るべし。又頭には貴賤を問ず皆冠をいたゝきたり(されど冠の制に貴賤の差別はありたり)されど昔しの書卷物に渡守の舟こぐ樣をかけるを小童が見て昔は御公家樣も船頭をなされしかと問へり如何とあれば冠を御公家樣の如き貴人のみいたゝく物とのみ思ゐしに此舟こぐ渡守も又烏帽子をつけゐたればなり古今著聞集と云ふ書にもある賤しき男の烏帽子をいたゝくを忘れて早朝ゑ大路を行し後姿のおかしかりしことをおどかきてあり其他皮膚を顯はさんことをおそれて衣服の製法にも甚た注意したりき。德川氏の時諸家の召使は侍より下衆に至るまで皆襟高くかゝげて皮膚を顯すを禮節とせしは足利の比の亂世にて左樣なる姿を武張りたりと云つて人々さやうあるさまをせしが遂に習慣となりしものなるべし。當時洋服の流行せる今日も猶衣は腕の方にまくりあげ非常に短かき衣を着けて脛を常ゑ顯はし自然木の太きステッキを持て意氣揚々と勇壯活潑なりなど張威りおる少數の青年ありかゝる人を延喜天曆の比の人は地下にて笑ふべし。

中古の婦女子は殊に貌ゑ注意したり他人に逢ふときは親しき人といへどもさしむかひにては對面せず必らず几帳(百人一首に畵などにかけるついたてようのもの)を隔て談話したりき貴人の他所へ行く時は途中は必ず牛車にのりて扨てかあた

へ行きたる時は門より家のもとまで筵道と云ふものを敷かせ其上を通ふには必ず貌に扇をおしあて、面を隱したり又ひたひ髮（今びんと云ふ）のわたりの髮の末をそぎて短かく爲して貌へはら〳〵とこぼれかゝるやうにしたりこれは扇などなき時ふりかけて面を隱す爲めなり賤しき女といへども外出する時は必らず衣かつぎといふをしてあらはに人の貌を見るまじき樣用意したりき此衣かつぎはいと久しく行はれて寛政の比まではありたりと年々隨筆といふ書に見ゆ當時女の被る頭巾は此衣かつぎよりおこれり又女の袴は貴賤上下皆これをはきたり其他女の衣服に注意せしさまなどは物語類の書にくはしく見ゆ當時の女の服のさまあしきことは云ふ迄もなかるべし帽子やうのものはかうぶらず袴は着ず（着る女子は尤も僅なり）衣はすそを蹴出す程に歩ごとに脛白くあらはれていとしどけなく、又袴を着けずして履などはくが故に其あるきゆくさまいと〳〵見ぐるしされど當時の女子の衣服も次第に改良論起りて改たまりゆくはいとよろこばしき事になんわはれ明治文明の教育を受け玉へる淑女たちよ千年以前の婦女子にいさゝかはづる所あれあなかしこ。

○百八一首一口話（三）

鈴木弘恭講
八木鶴次記

柿本人麻呂

足引の山鳥の尾のしだり尾のなが〳〵し夜をひとりかもねむ

此の歌万葉集及び拾遺集にのせたり。さて上は序なり。意は下の二句にあり。戀の歌であります。足引は○山にかゝる冠詞なり。山はその山麓は必ず斜なるもの故に足引といふなり。是はもと人躰にたとへて云ふよりの名なり。即ち高き處を頂といひ。中部を山腹といひ。少し下りて腰といひ。下部を足といふ。麓といふも脚本といふ言の約りたるなり○山鳥は雉の類にて尾羽の長き鳥なれハ。山鳥の尾のしだりをといひかけて。長しといふ序にしたるなり。なが〳〵し夜ハ。ナガイ〳〵夜といふとにて。すべて言を重ねていふときは。重く強くなる格なり。大サゥに長き夜といふ意なり○かもねむのかもは。カマゥと云ふとなり。歎息の言葉なり○一首の意は。大ソゥに長き此の夜を一人で寐るのであらうか。サテモサテモつらいとであると。歎息するうちに充分に我が愛する女を戀ひしたふ情を含めて。甚はだ眞意の歌なり。かもねむのかが指辭にて。ねむのむで結べり。此のかは疑歎のかといふのでありまして是亦一段切れの歌であります。

小説

○都鳥

石橋忍月

第一回、是ぞ浮世の誠なる　(下)

波　又そンなヿ言ひ出して、つまらない、夫れはさうと昨日子藤川伯の内へ行ッて話しを聞くと、清原の令孃はなンだか離緣になりさうだッて、なぜだらう子

八　オヤ左樣で御坐ますか、妾はチットも

そりやア君、婚姻に必要なる條件を充さずして結婚したからだ

と突然に椽側の障子を開けて案内もなく入り來るは波之助と同じ年恰好の朋友松葉新一と呼ぶ某法律學校の生徒にして色淺黑く、躰肥え太ッたる男、何處へ行ッても遠慮、辭退と云ふヿを知らず氣樂八分に苦勞二分で世を渡る將來の紳士

波　ヤア松葉君か、君は何時の間に來てゐたのだ

八　マア吃驚致しました、お出でなさいまし

と丁寧に辭儀を陳べ「お敷なさッてヿ」坐蒲團を進むる

新　チットこれはしたり、茶をこぼした、イヽエ茲にハンケチが是れはお八重さん憚りさま、ドウ致しまして、ハ…僕ば君、表へ廻ると路が遠い、隨ッてそれ丈け時間を浪費す故に裏道を拔けて庭から這入ッて來たのだ、エ、なんだッけさう〳〵清原の離婚それやア、君成る程滿子孃だッて結婚者互ひの承諾で成り立ち且つ、エー、結婚者は近親なる可からず、結婚者は適齡に達せざる可からず、結婚者は定ッたる儀式を行はざる可からずヿ云ふ法律上の規則には合ふてゐるから非難はない樣なもの丶然し子君、結婚は一男一女たらざる可からず、結婚は生涯の結合を目的とせざる可からず……

波　又お株が初ッた、モウ講義は大槪にして置き玉へ、如何に職業柄とは言ひ乍ら餘りだ……なに言ッてゐるンだか分りやアしない

新　分らなけりや、分らない人が其罪を負擔せざるを得ず、アノ滿子孃の婿の綾瀨氏だッても成る程表面上は一男一女に違ひないサしかし紳士に似合ない所爲がある、洋行歸りで才識はあるし日の出の勢は有るが兎角浮薄だ、陰然一夫數婦の傾きが……

波　モウ人の毀擧を止し玉へ、それより誰れからも恨れない樣な世間話が宜や

新　兎角、君は人の話をけなすチ、エ、お八重さん何ぞ面白

い話はないかナ、御主人公がいつでも沈默主義だから困る

八　妾なンぞがなンの面白い話があるものですか、けふは上野にお花見にいらしやッたのですか、此の間あなたは向嶋にお出でなすッて長命寺のお茶屋で面白い事が有ッたさうぢや御坐いませんか、オホヽヽヽ

新　ヤア驚いた失策話の廣がるのは早いものだ、實ゞ其爲め懷中を掏られたのは殘念だ

八　モシあなた、妾はあなたにお聞き申したいとがあるの、

お八重は此「殘念」の一語を聞いて又も鋭敏なる感覺の御厄介

妙な事ですがアノあなたは世の中に何が一番殘念な事とお思ひなさるの

新　これは又變ッたお尋、さうさナ醉後渴甚しと云ふ時、後にも前にも、たッた一杯の茶椀を轉覆す、實に殘念

八　ホヽヽそんな事では……

新　おいと言ふのか、それではナ、途中で年は二八の後や先まだ內證は白歯の娘、丁度お八重さんの樣な佳人に逢ふ、佳人顏を洋傘の中にかくして見せしめず是れも殘念だ

八　ホヽヽまたあんなと

波　ハヽヽ相變らず野別に出るナ

新　それでお氣に召さなけりや、孝行をしたい時には親は無し、まさか、石塔に蒲團は着せられずも隨分殘念だらう

聞いてお八重は頭を垂れて思ひ入れ

新　チイ君、園井、人にばかし物言せずと君も少しは意見が有るだらう

波之助は極眞面目なる顏附にて

波　問題が君、世の中に一番殘念な事は何と云ふ問だらう、一番殘念な事が三ッも四ッも有る譯はない必ず唯一でなくてはならぬ、僕が一番殘念だと思ふ事は結婚の撰定其宜しきを誤る程殘念なとは有るまいと思ふ

松葉は此語を聞てお八重の方を打守り

成　アル程、御尤も

と冷笑し、お八重は頭を擡げて不審顏若し假りゞ心中を現はす寫言機あらば「イヽエさうではありません、まだ外に」と言はん歟將た「さうです當りました」と言はん歟

時しもガラ〳〵と車の響門口に停りて訪ふ人あり取次に出たるお八重の口上

八　アノお國からお米樣とやらが見えました

波　ナニ、妹が來たッて、突然だナ

○小說神髓（第一篇）

蘇格氏著ケチルヲルス（第八回）

レスター侯は陛下がサツセツクス侯に伴一人召連らるゝことを許し其身に同樣の許可なきを不平に思ひ恐れ多くも之が恨みを申上げたり陛下侯を叱りて彼のラレーは昨日サツセツクス侯より貰ひ受けたるものにて今まは朕が臣と爲れり何歟に付けて斯樣に兩侯の競はるゝと以ての外なり今まは兩人を召きたるは即はち從來何如ようの確執ありとも今まは朕が仲裁によつて悉く之を忘れ快よく手を握つて丹心を打明け向後もろともに國家の爲に忠を盡さるべしと仰せあるに何れも默然として御答へを申上げず元來サツセツクス侯は其先代の時より王家への忠勤一と方ならずお家に取りては無二の功臣なれば陛下が之を見玉ふと亦た尋常ならず多くに超へて格外の御覺へはあれども其の御心の中にレスター侯を愛で玉ふ樣は亦た之に比すべきにあらず左ればサツセツクス侯をば之を敬しレスター侯をば之を愛し平素兩侯へ對するの御計らいを一樣にして絕へて優さり劣りの無きようには致さるゝものゝ兩侯ともに其折々の御覺へを戴き互ひに競うて權を爭ふに至れると異に歎げかはしきとなり扨ても陛下は再び御言葉を出し兩侯今ま快よく握手せらるべしサツセツクス侯には之を望まんレスター侯には之を命ぜん若し再應違背せらるれば共に牢に入れて嚴しく禁錮せしむべしとの御意なり然るに此時陛下が之れを望むと仰せられたる時の語氣反つて之を命じ玉ふ如く又た之を命ずと仰せられたる時寧ろ之を望まるゝの語氣ありレスター侯逸早く之を感じ特には陛下の愛を申受るに如才なき質なれば先づ立つて御答へ申すようは、臣等牢に入れられんとは少さか怨らむ所ろ之れ無く候へども陛下の愛を失なわんと何よりも心憂く候左らば臣先づ手を出し申さんサツセツクス侯いざ握手いたさんと云ふにぞ侯も遂に之を否むを得ず立ちて其儘之に應じたり。

陛下御喜び斜めならず扨て申すべきはレスター侯にパーチーと云へる家來ありや之に附て訴狀一通出で居れりと仰さるゝにレスター侯さてはと驚愕大方ならず眞靑にありて早やぶるくと震はれける陛下靜かに之を打見やり玉ひ御家來の事なれば左樣に御心配には及び申さじ其のパーチーと云へるものラブサート氏の令嬢を勾引かし他國に走り而かも之を獄めきたる處ろに取込め置くよしトレツセリアンと云へるものより訴へありレスター侯今まは其の家來同伴せられたらば此處へ召

び出さるべしとあるに候は精魂身に副はず唯々として之を招きたり陛下はパーチーを見て御身にかよう〱の訴へあり確かに其孃を勾引かせしに相違なきやと詰問せらるゝに決して勾引かしは致さず當人の承知にて連れ逃き候と云ふ然らば最早婚姻は爲したるにやとあるに何如にも正當の婚姻を致し候と云ふレスター侯此に至つて禁ずるあたはずパーチー陛下に僞わりを申上るなと怒つて飛び掛らんとするを陛下は之を押し鎭めつゝ家來の爲に左樣に心配せらるゝには及ばず扨て然らば御身が右樣の婚姻を爲したる趣きレスター侯の承知せらるゝ所ろありやと重ねて御問ひあるにパーチー落附き拂つて御承知どころには候はずそも〱私共が斯樣に相成る其の元因は全く主人の故にて候と云ふにレスター侯最早萬事終れりと感念し齒を切しばりて恨思無限の面色あり恐ろしき眼を怒らして之に近よらんとするを陛下復たび之を制し其由緣具さに申せとあるにパーチーの答ふるよう此儀については極めて秘密に申上たきとあり何卒傍らなる人々を暫らく御拂ありたしと云ふにぞ陛下は即はち其の請ふがまゝに兩侯ラレー等を隣室に退かしめ玉ふ。

佳傳

劍頭愛

○ハーリートチウエル夫人

傳道の事業を執りて顯はれ出でたる亞米利加第一流の女傑は一千七百九十三年（九十五年前）十月マサチユセッツ州ハーベルヒルに生る幼名をアトウードと云ふ幼にして敬虔の念篤く十六歳の時洗禮を受て教會に加わり十九才にしてサミユエル、チウエルに嫁ぎ其同じ日印度傳道の爲めに出發し未だ一年を經ずして道の爲めに殉しぬ是れ婦人の身を以て故山を雲霞の間に割愛し萬里濤を蹴て異鄕の民に福音を宣傳せし初めにして又道に殉せしも夫人を以て嚆矢とす嗚呼此の滿天の精神あり拔世の志あり然り而るに未だ一年を經ざるに敢なく賊刃の爲めに逝きぬとは天道を恨み夫人の志を憐むの外なしと雖も其血は流れて地を霑し其氣は凝つて後人を敎激せしを思へば天道必しも恨むべからず夫人の志却りて達したりと云ふべく夫人自らも亦夫人か嘗てより熱中せる希望（クリストの爲に善事をなし異鄕の民に福音を傳ふること）を達せるを喜ぶなるべし去れば古往近來屍を異鄕の濱に漂わし骨を蠻土の野に晒して道に殉せし人達は其數百を以て數ふべく到る所に其跡を見るを得て其業は赫々として萬世に傳ふべきの大業ありと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雖も獨り夫人を以て亞米利加第一の殉教者として其績を賞するは其業の大小にあらず其時の長短にあらで只當時傳道事業幼稚なるの時社會上流の人士は其業を賤めたる時に際して東方の天に横はる暗黒の雲を排き眞理の光を顯はさん爲勇進し世に反らひ舊故に別れ涙を飲みて死地に航せし其精神ぞ吾輩の共に稱して措かざる所なれ而して其志を逐ふ者日に月に多きを加へ傳道の事業は全世界に功果を見る今日となりて其業と共に輝くは夫人が功業なり歳と共に積るは夫人が美名なり若し其歳にして積り積りて其極に達するの時即ち世界の終らん時聖徒の天に集らん時神の前に賞罰のあらん時其の時榮の冠は必ずハーリート、チウエル夫人の頭上に輝かなんことはこれ夫人が精神の最と貴くありたればころになん。

夫人逝くの後其傳道の記事と宗教上の感情を記せる日記と其書簡とは編みて一冊の冊子となし夫人が形身ともがなと見しに其書非常の喝采を得て今は數國の言語に飜譯せられ到る所社會の中心に進入して婦女の權力を增張し女子の有する道德の勢力は却りて男子の上に出で其智識の發達も亦道心の錬磨に依て愈光を發することを世に示したれば僅々數葉の小冊子は彼マダム、デ、スタールが一生の事業よりも遙かに多く大功を奏せりかゝれば夫人身は既に土と共に朽ち果てしも其精神は今も尚ほ活社會の上に進入して活々其業をなしつゝあると云ふべき歟今や我國女性の身を以て爲すべきこと多端にして一々これを述べ難しと雖も一言これを盡せば女權を伸張し女子の地位を高ふせんと云ふに外ならず而して更に其本源を叩けば女德を高むと云ふに過ぎず扨て又何によりてこれを高むるかと更に究問せば今日の輿論はクリスト教を以てせよと云ふこれ吾人が夙より稱道する所にして今も尚頻に主張する所なり思ふにハーリート、チウエル夫人の精神も亦此點に在りしならん否全世界滿天地苟も眞理を慕ひ德義を重ずる人達は皆この説を持ち居るなりこの説を持ちて又此の説を實行し居るなりア、我全國の同胞よ殊に我か姉妹達よ苟も今日女流の有樣に嘆きて女德の進歩を思はん方々は早く來りて其道をクリスト教に求めよ求めばすなはちこれを得ん又既にこれを求めてこれを見出し其法を得たる姉妹達は進み進みて社會に立ち以て其法を利用し其説を實行せしめよ其法は即ちハーリート、チウエル夫人が世に施せし同じ法にして又同じ結果あるの法なり既に其法を知り又其例を見て其果を知ながら現に目前に死を以て成就せる夫人の精神と其行を見ながら國を同

うする我同胞姉妹（異郷の人にあらず）の爲めにこの道を述べこの法を施さずんは何の面目ありてか天上にハーリート、チウエル夫人ゝ面せんァ、我全國の姉妹よ既に道を信するの人達は云までもなし未だキリスト敎の何たるを知り玉はざる方々と雖も各々務む所ありて幸に夫人の靈をして安からしめよこれ君達の務ぞや。

●寄書

○湘烟女史吟作

中島俊子より來る此頃の書状の末に「太田村居は意外に面白く透屋梅花香馥郁の有様にて月夜などの景色は不可言一家韻語を解するもの尠らざれば折々分韻などして幽致無限事に覺候唯可歎しきは餘り狹き家故韻事の人は穿針の人に傍ひ鏡奩は花瓶に鄰する如き有様にて今日も或人より梅花一枝贈り來り候其使に一詩を爲持歸せし事なるが其詩に、

贈到梅枝無俗態。春風動香鏡書簾。村居笑我草堂狹。挾得瓶中隣鏡奩。

○祝　博　覽　會　　大阪一致女學校生徒　井上たつ子

海外諸國と交りを辰うせしより藝起大いに百工を勸めあらゆる藝術を盛んになさしむ其光榮祝せざるものはあらじおほよろ物盛んなれば必衰ふるは自然の勢ひなるに博覽會のごときさはなく〳〵てとし〳〵春光陽和の日に逢ふごとにこの會を起されて御國の人々の智識を開闢することは恰も萬物の春風を仰て發育するがごとくいで〳〵陋句を歌ひて祝せざるべからず

春毎にますやたからと人の智恵

水聲報春　　同

山川の岩間の水もおと高く春なりけりとひゝきぬるかな　　前川まさ子

谷鶯　　同　人

谷川の雪の下水うちとけてもらしそめたる鶯のこゑ

春鳥　　同

朝日影さすかに雪ハむら消て野邊に囀るもゝちとり哉　　片倉　綾野

同　　同　人

めたかなる御代の姿をあし田鶴の雲井に見せて遊ふ春哉

春日遊歩　　同

山蒼々水泱々さして天ほがらかなり何心なく柴扉を出て杖を野邊に曳きかなたこなたと緩歩するに草葉のみどりに吹わたる風さへいとうるはしく實に幽懷に堪ざらしむるに足る且いこひ且ゆき遂に某の川のほとりに出づあたりを見れば翠柳新眉をたれてわらはが心に應ずるのおもむきありなどろころに興じて春の日の長きを覺へず　　近藤りむ子

柳ほど眼にあかぬものはなかり殘

むらさき式部　　同

五十あまりよつのまき〳〵今も猶世にこそ薫れことの葉の花　　横川みね子

小のゝ小町　　同　人

花の色はうつりにけりと歎きけん言葉の色ぞ世にも名高き

述懐二首　　同

嬉しさや神を杖とも柱ともおもふてくらす身となりにけり　　井上たつ子

見る影もあらぬ身なれば猶さらに賴みすくなき此世とぞ思ふ

感　春　景　　同

ふきわたる風は漸く和暄をふくみ見わたす野山に皚雪のあともなく韶光の化隈なくゆきわたりて黄鳥ハ喧謡のこゑを發しておふけなくも泰平の聖世を謳歌するもの如し梅の花は色香ふかく咲出てかなたこなたに爛熳たりまことに以て人意に快適して見るもの聞くものにつけて嬉しきことのみ多しこはそも忝くも父なる神がわれら人類の爲に年々歳々かわりなく歳々年々艶陽の季節をめぐませ給ふことの有難さを感ずるの餘り世になよ竹のなよ〳〵しくも神のためにはたらかばやと思ひまはせばまはすほど袖に玉ちる涙の露つゆの報ひも卒らぬわらはが拙き水莖に御たまものゝ春げしきをものせんなどゝへいと恐れ多きことにこそ　　堀江みよ子

少女摘若菜　　同

つみあまるおとめが袖の嬉しさもこぼれて見ゆる初若菜かな　　龜井とめ子

松上霞　　同　人

霞たつ岸の姫松ちよかけてみどりの色のいやまさるらん

水邊柳　　同　人

青柳のみどりになりぬ桂川水のこゝろも風のすかたも

洗禮うけたまひし人の祝ひにこしをれ二首をおくる　　大河ぬひ子

朝日かけさすかに池のうすらひも解てのどけき春となりけり

同

ひらきたる心の窓のしら梅のひかりをそゆる春の夜の月

●新報　（此欄内の記事は自由に轉載抄錄を許す）

○婦人慫風會

同會の事に付て公論新報上彼是と譏謗せらるゝものあり社會に善事の行はるゝを妨るものにて甚はだ遺憾と考へ吾人は左の辯言を毎日朝野の二新聞に投じたり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本紙の讀者諸君、凡婦人にして國家の惡風を矯正せんとさるゝは其志望高潔最も喜ぶべき儀と存じ候、然るに斯る高尚の目的を有する會合にして其會自身に惡風を生じ候ハ歎息の至り最も憂ふべき所に候、苟くも國家道德の進歩に掛念致し居る者ハ此の一喜一憂ともに眞面目にして少さかも浮たる心得有之間敷筈と存じ候、然るに此頃公論新報の上に於て婦人矯風會の事を惡ざまに記載せらるゝ文字の如きは素と何等の考にて認めらるゝものか殆んど其主意を瞭解致しがたし、現今婦人矯風會と稱する會合の中に萬一謂ふが如き惡弊の候ハゞ天下の志士は宜しく堂々之を擧つて毫末も容赦いたさゞるべし何も名を匿して曖昧の文字を用ひ殆んど取とめなき句調を以て陰に之を攻るの必要は有之まじく存じ候、然るに公論新報上論者は猥褻を極めたる文章に滑稽嘲弄の意を含ませ特更らに差したる抑へ所もなき樣にして專ら會の信用を落さんとせらるゝ者の如し眞に悲むべき處置と存じ候、吾社は微力と雖も日本の女德を清潔なる方向に進ましめんことを熱望し之が爲には不及ながら相應の盡力致度心掛居候に付ては善良なる婦人方が世上の惡評を蒙り其善良なる事業をも併せて消滅せられんとするを見ては決して傍觀默々致しがたく候、公論新報の辨ずる所に由れば婦人矯風會は日本國中の處々に散在せり必ずしも東京婦人矯風會を指すとは申す可らずとあり然れども凡ろ矯風の如き善良の目的を有する會合を譏するに當り如此き漠然たる申譯を以て自得するは紳士の安んずべからざる所と考ふ左らば吾社は東京にあるを以て先づ東京婦人矯風會の爲に確答すべし吾社の探知する限に於ては同會に於ては公論新報上の論者の述らるゝ如き弊風毫末もこれ無しと而して諸國に散在する數箇の婦人矯風會に於ても亦同樣なるべきことを信じ居候也、吾社は探知の足らざるを以て或は誤まらるゝことあらん然れども知つて之を曲ぐる如きは全社員の死すとも敢てすることを得ざるものなり、故に論者の知る處の事實にして吾々の承知せざるものあらば或は新聞紙面に於て或は書狀に於て（其一論者の謂ふ如く之を公にしがたしとならば）之を教示あるべし苟も其事の實際ならんには今の婦人矯風會の爲に辨ずる者は即ち異日最も激烈に之を攻擊するものとならん、必竟我々ハ我々の義務を盡し專一に女德の清潔に進み道德の高尚に赴かんことを熱望するものにして善を賛め惡を退くるの最大責任あるを覺悟するの外なし故に今ま寃罪を負ふと認むるものゝ爲に辨ずると如此讀者若し細かに其實を判し世に善良なる目的を有するものゝ志望をして悲しくも徒らに消滅せしむることなくんば幸甚。

○女子と唱歌

近來所々に唱歌の教授場あり當分はヤブウグヒスの聲を聞かせらるれども追ては春鶯囀の樂しき妙音を四方に承はり得べしと樂しみ居たるところ何處の教授場も兼ねて待搆へたる程のお弟子は無之よし殘念の至也然し吾人の考へによれば此の科必らず之れより多くの望み手あるべし吾人は亦た其の多からんことを望むもの也。唱歌の効能は專門家に承はれば眞に澤山あれども夫は扨て置き先づ女の方々が之に由つて最少し大きな聲と成られ人中に出でゝ蚊蚋の泣く如き微音を止めて、左らばとて家の中にて猥褻なる俗歌をうたうことを止めて、人に對しては玲瓏の美音を振り、家に在ては清潔の歌を唱へられんとき夫まで女子唱歌の効能既に多し、肺が善く成り躰が壯はり精神が爽快に成り志想が純潔に成る如きは即はち一層の奥の効能也。

○德島縣下娼妓公許

妓樓全廢の氣運大に熟せんとするの今日尤も悲しむべき一報に接しぬ即はち從來德島縣下には妓樓の公許なかりしところ兼ねて梅毒の大に流行するより是は必竟彼公許妓樓の存せざるより密賣淫自から大に行わるゝに元因すと爲し扨ては此度の如く今より妓樓を公けに設け茲にて梅毒檢査を嚴密にせんとの窮策に出でたるよし。之れ一應は尤の樣なれども妓樓全廢論に對する反對論はいつも此の所ろに於て大に迷ひ人民保護の上よりは今日娼妓を置くの止を得ざるやうに思ふものあり眞に悲しむべきと也曾ても論じ置たる如く妓樓禁止と共に其后ちの取締を一層に嚴密にし尙更に嚴しく賣淫を制せば決して斯る患ひある可らず然るに一方には妓樓を禁じながら其一方に取締を嚴密にせざるより遂に恐るべき害毒の暴發に遭ひ則はち娼妓禁止は迚も行ひがたしと思ふと也。島田三郎君の近著開國始末を見るに井伊公其領下に娼妓禁止を斷行し餘德今に至るも尙ほ父老の感謝する所ろとなると云へり誰か云ふ明治の政事家安政人の眼識なしと、歎すべき哉。

○美術の雜誌

美術論のかしましく成れると共に美術上の雜誌漸やく起らんとす東京秀英舍主佐久間君は尤も熱心にて此頃ろ既に一洋館を新築し此處より大仕掛の美術雜誌を發行し世間流行の本源を造らんとの計畫あり、又た西京青年繪畫會の會員は美術雜誌と云へるを發行せんとの準備中のよし。吾人は美術の流行を尤も熱心に喜ぶと共に其の清潔なる美術の流行せんことを希ふと亦尤も切也。

○次號に讓る　去廿九日の夜麻布鳥居坂女學校に音樂會あり去卅日櫻井女學校に文學會あり當卅一日築地女子傳道學校に卒業式あり來一日駿臺成立學舍女子部に紀年會あり景況は何れも次號に讓る

○英文日本女況　橫濱フェリス女學校の島田かし子が英國バッサル女子大學にて取調ぶる世界女況の報告の爲めに一文を草して送られたる由は前號に記るし尙ほ其英文は本誌第九十八號に載せたるが此頃紐育女子大學卒業生會の書記エリザベス、ロスト孃より禮狀を送られたる文に、

昨日の集會にて御文章を朗讀したる處ろ非常の喝采を博し會員一同大に滿足いたし候趣きを申上るは當會の書記として眞に喜ばしきことに候、其節姉が平生の御働らきは何如ようにや伺ひたくと申すもの甚はだ多かりし時同日偶ま來會せられたる姉の友人フハーリントン老孃より僅かに其一斑を伺ひて滿足は致し候ものゝ尙更らに精はしう承わり度何れも希望いたし居候此后とも何卒時々御文章を惠まれたく尙ほ當地にて姉の爲に盡力し得べきとの儀はゞ之を出來得べき

丈け仕り候と皆々の本意に候云々

○矯風幻燈會　東京婦人矯風會の發起にて去る廿二、三、四の三夜木挽町厚生館にて矯風幻燈會あり之は有志者の補助に由て成り其の切符賣上金は半ば米國シカゴ婦人禁酒會々場の建築費に寄附し半ばは東京婦人矯風會々場の建築費に充つる爲めなりと云

○婦人衛生會　大日本婦人衛生會にては去る廿四日其總集會を開きたり

○感化院　感化慈善會にては今度感化院を建設することに決し掛員より其敷地として東多摩郡和田村字大宮官林の內五千九百七十坪の拜借願を差出し學校、工業所、事務所、應接所、食堂を設くる都合なりと云ふ

○子守學校　子守學校設立の企てありしとハ曾て本紙上に掲載せしが今度又府下荏原郡數ヶ村の有志者が相談の上子守の傍ハらに最も手近なる學業を授けたらんには少女の幸のみならず其抱負せる小兒までも見習ひて彼我の利益少なからさるべしとて義捐金を集め幼稚園と小學校とを兼ねたる一子守學校を設ふけんとの計畫ありと云ふ

○束髪慈善會　束髪は從來の日本髷に比較して髪結賃凡そ月二十錢を節減し得べければ此二十錢を慈善の用に供するは美擧なるべしとの考を起せし某婦人ありて之を二三の貴婦人に諮りたるに何れも賛成にて束髪慈善會と名づけ其出金は婦人慈善會に寄附するか又は別に一會を組織するか相談中なりと云へり

○篤志看護婦人會　日本赤十社の同會にて同會の教程三册を印刷し既に第四號も發布せられ科目ハ講師足立寛氏が人身構造及官能と傳染病とを講述せしものなりと又去廿一日同會を開き小松宮御息所三條公爵夫人其他五十餘名會し足立寛氏講談ありし由

○明清樂合奏會　來四月十五日には麹町區富士見町なる清樂師長原梅園氏が會主となり同氏の亡姉平井蓮山氏の第三回追善の爲め江東井生村樓に於て府下の樂師數百名を招き一大明清樂の合奏を執行せんと計畫中なりと

○福井縣産婆規則　福井縣にては今度産婆營業規則を定め同業を營むことを得るものは産婆術卒業證或は經驗證書を所持する廿年以上の婦女にして縣廳の免許證を得べきものとし若し違背するものは二日以上五日以下の拘留又は五十錢以上一圓五十錢の科料に處することし同時に産婆講習會規則なるものをも設け各郡に産婆講習會を置き講習進歩を謀るとのこと

○婦人の佛教演說　福井にては去る十五十六の兩日同地照護寺に於て婦人諸氏の佛教演說あり頗る盛會なりしと

○佐賀婦人令德會　同會は佐賀本派淨願寺の婦人信徒の共設せしものにて毎月第一日曜日願正寺と云へるに會合すると云ふ

○手藝品展覽會　岡山區の有志者は四月下旬より一週間女子手藝展覽會を開設する由

○廣島婦人慈善會　廣島にては去る十五日より三日間同地偕行社にて慈善有志の婦人慈善會を開らき收入金額は赤十字社へ寄附すると云ふ

○大坂婦人慈善會　大坂鎭臺偕行社にて組織せし婦人慈善會の會員即ち將校の夫人令孃は四月以後第一日曜日に看護法の教授を受くる事になりて去五日午前九時會員を偕行社に集まらしめ鎭臺病院の小松二等軍醫正菅野一等軍醫が主となりて出席し小松氏看護會開設の主意を演べ菅野氏人躰骨格等を說明し尚ほ追々に綳帶法のことも講述するよし固と此會は軍人に對して慈善を施すの主意より成立せしものなれば負傷者の介抱位は心得居らざるべからずとて斯く講義會を設けしなりと云ふ

○德島婦人會　曾て記せし如く岡本斯文氏首唱にて德島に婦人矯風會を設けんとの協議會を去十一日德島高等女學校內にて開き中澤裁判所長速水郡長其他男女數十名出席して規則等を定め名稱も婺淑會と改めたりと云ふ

○女學校設立見合せ　大津にて女學校の計畫ありて同地商工會所にて相談會を催ふされし處見合す方宜からんとの說多數にて否決となりしが尚不日再議せらるゝならんと又幼稚園は設置することになりたる由

○京都看病婦學校の生徒　は目下四十餘名なるが東京大坂其他各府縣の人のみにて京都婦人は一人もなしと云へり

○鴨東幼稚園　京都下京第廿組有志者は客年より幼稚保育科なるものを設けしが生徒追々增加したるに付幼稚園と改めんとの議あり既に二百五十餘圓の義集金もあり組合內共有金の利子を以て維持費とし鴨東幼稚園と名つけたりと云ふ

○婦人英學研究會　同會は客年石の巻の愛育舍內へ開設せしものにて爾來可なりの進步をなし米人ジョンス夫人を聘して益々力を盡し居る由

○湧谷幼稚園　宮城縣遠田郡湧谷地方にては村會の決議により湧谷小學校內へ幼稚園を設けし由

○女況彙報　靜岡女學校は盛大に趣きて狹隘となりし故新築の計畫あり○備後尾道にて婦人會設立の計畫あり○志摩英虞郡にては女生の就學甚少かりしを戶長など說諭をなし或は幻燈會を催しなど種々父兄に對して刺擊を與へしが此頃は頗る盛に趣きしと○又同郡片田村子守改良會なるものを設けたり

（同前）

●外報

○三百萬弗を與ふ　パリ府ボンマーチ製造場の持主ボウシカウト（Boucicaut）夫人は此度十年以上勤務したる職人等の間だへ三百萬弗を與へて分配せしめたる元來夫人の前夫は其の三千人の職工を勞ハり萬事甚はだ信切に世話せられたれば同氏逝くの後ちも夫人は其志を繼ぎ場內に音樂文學語學等の敎師を置きて暇まの折々職工に之を敎授せしめ病あるときは抱への醫師之を診して丁寧に看護するなど平生の介抱至らざる所ろなかりしと云へば此度の事の如きも別けて驚くべき慈善にはあらずと云へり（ザ、クリチック）

○英國女職　現今英國にて電信技手郵便局員等と爲れるものは二千九百八十一人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

あり此内ロンドン、エヂンバラ、ダブリン等の中央局に居るものは合して七百五十人なり（フハミリー、ヘラルド）

○裁縫共進會　紐育のカーフヒールド針細工物博覽會の第二回は去年末に開きたるが部を十に分ち各部にて最上の出來と審査せられたるものには各百弗づゝの賞金を附與したり（グーデース、レーデース、ブック）

○子供のはなし

尤も尊き所行

むかし戰爭の大層に流行つた亂世にある老人が三人の子供を召んで申しますに自分も最早や斯く老年と成たれば兼て貯へたる金銀財寶を三つに分けて汝等に取らすべし能く之を大切に保護して且つ自分を養ひくれよと云はるゝに子供等は父が斯樣に年の老ひたるを悲しみ乍らも皆な確かにお受をして承知致しぬ然るに老人の申すに此上更らに一つの品あり之は先祖代々傳來の寶刀にて子供の中ち尤も尊うとき所行を爲したるものに取らするの規則なれば今ま汝等が之れ迄で行ひたる所行のうち自から尤も尊うときとにてありしと思ふものを語り玉へ其中にて眞に第一に尊ときものへ其の寶刀を與ふべし先づ季の弟より語るべしとあるにぞ、末の子の答ふるようは或る日旅の人が私に莫大の金を入れた包を預けて暫時他所へ參りましたとがあります其時包の内には何程の金がありしか存じませぬが旅人も亦た別段之を勘定もせずして只だ其儘に預けましたゆへ若し此時私しに惡心がありましたならば其中の一つ二つを取とも知れざりしとなるに決して斯る惡心を出さず正直に預かつて居て渡しましたが之れをば先づ自分でも善きとを爲たと思ふて居ります、と云ふに老人は成程夫れは正直であつたがまだ〳〵之を尊とむべき行とは云はれません人の物を預かつて之を正直に保護するは當然の事であります若しも其時汝ち之を一つにても取らんには乍まち盜賊と爲るべし盜賊と爲らざりしとて何も尊うときとにはあらず。仲の子は何如なるとやあると問はるゝに、其の答ふるよう、甞て或る村を通りました時幼な子が遊び戯むれて居りましたが如何のはづみにや傍はらの河に落ちたり誰れも之を救はんともせず見て居りましたゆへ私は驚ろきて馬より飛下り直樣飛び入りて之を助けましたが先づ此の事が一番に善い事を爲たと思ひ居りますとなり、老人の云はるゝに之も亦た善い事であつたが然し人の死せんとするを助くるは當然の事で若し之を其儘にして置かば之より不信切はあるまじ犬ですら人を助け鳥ですら同類を憐れむに况して人間が可愛き幼な子の苦しむを見逃すべきにあらず若し之を其儘にして通りしならば汝ぢは世にはづかしき慘酷の人と爲るのでありしが之を助けたるこそ善行なれ左れば是れ又當然の事を爲したる譯ゆへまだ〳〵これを尊うとむべき所行とは申されず。兄は何如なるとやあると問はれて、

（以下次號）

廣告

宮内省御蔵板

婦女鑑

全六冊

此書ハ宮内省ノ御藏板ニシテ婦人ノ亀鑑トナルベキ和漢洋ノ孝女烈婦貞女賢母等ノ言行事蹟ヲ蒐輯シ且ツ圖画ヲ挿入セラレシモノニテ既ニ本年一月

皇后宮ヨリ華族女學校ノ生徒ヘ御下賜相成リ實ニ婦人ノ課讀又ハ修身口授用書トシテ其德性ヲ涵養スルニ於テ最モ有益ノ書ナリ今般弊舗ニ於テ發賣ノ御許可ヲ蒙リ候ニ付婦人ハ勿論苟モ婦女教育ニ志アル諸彦ハ必讀アランヿヲ切望スル所ナリ

但シ右書ハ各賣捌ヘ差出シ有之候間何卒御手寄之書林ニテ御講求被下度候

定價金壹圓　郵送料金四拾錢

東京書林　吉川半七恭白

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●謹告淑女　神田區西小川町二丁目四番地　東京唱歌會

抑唱歌は淑女本分の技藝なり然るに府下二三の女黌を除き未だ其科の設ある稀なり本會曩に紳士學生兩部の外特に淑女部を設け有志淑女の就いて學ぶ所となせり爾來漸々入會の淑女あッて追々隆盛の運に向へり頃日本會々員の淑女は勿論紳士學生男子の諸氏も頗る上達の徵候を呈せり世間有志の淑女英學女工の餘暇一層御憤發あッて速に本會へ入會せられ紳士學生の男子に負けず淑女本分の技藝たる優美高尙の唱歌を御勉强なされむこと只管希望に堪へず候

●(會日)火曜木曜從午后四時至五時(但し淑女のみの時間)

●(會場)神田區猿樂町二丁目九番地尙聚學校●會費金卅錢

交詢案内

●雇はれたき方（乙）

一　教師　師範學校女子部の卒業生にして府下の何方へか教授に行きたきものあり

二　畵師　洋畵の女教師と爲り得るものあり廿才前後時間多からずは女學校の教師となりたし

三　奉公　年頃廿一裁縫及び家庭の事を知る爲め無月給にて府下にて可成基督信徒の家へ雇はれたきものあり漢學英學も少し出來るなり

四　學婢　年齡五十七歲の婦人にして書畵歌琴三味線裁縫を心得居り女學校留守居樣のものに雇はれたきものあり給料は己れを糊するだけにてよろし

五　學婢　學問篤志なれども學資に乏しく困窮する十四才の田舍娘にて讀書すべき余暇さへ得れば無給にて女學校などに雇はれたきものあり

六　奉公　地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇はれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし

七　裁縫　年齡廿三にして家內の手助とならんが爲內職に裁縫に雇はれたき者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて築地邊ならば通ひてもよろしとの事其他ハンケチのふち縫ひの如きにてもよろし

京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

發兌

一月。七日　十四日　廿一日　廿八日
二月。四日　十一日　十八日　廿五日
三月。三日　十日　十七日　廿四日　卅一日
四月。七日　十四日　廿一日　廿八日

定價

一册。五錢　郵税。一錢（但府內無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記諭を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

明治廿一年三月十二日
自第百二號
至第百十一號　拾册
版權登錄

明治二十一年三月廿九日印刷
明治二十一年三月卅一日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京京橋區日吉町八番地寄留　嚴本善治

印刷　東京下谷區仲徒町三丁目七十一番地　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY